

愛知県芸術劇場

市町村連携プロジェクト2017-2018

報告書

2017年度 愛知県芸術劇場 市町村連携プロジェクト報告書

公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業・愛知セッション	2-5
アルヴィン・スプートニクの深海探検	6-7
島地保武×環ROY『ありか』	8-9
リーディング・カフェ	10-11
GAGA&バレエ入門講座	12-13

芸術文化に触れる機会の少ない場所に迫力ある生の音楽を届ける

公共ホール音楽活性化 アウトリーチフォーラム事業・愛知セッション

Outreach Forum at Aichi: Vitalization of Music at Public Halls

芸術文化に触れる機会の少ない場所へ向う「アウトリーチ(手を伸ばす)」という方法によって、プロの演奏家が県内市町の学校や公共ホールで迫力ある生の音楽を届ける事業。今年度は全国公募で選ばれた3組のアーティストが参加。子どもたちはもちろん、演奏家にとっても日常と離れた土地に滞在しながら行った演奏会は貴重な経験となりました。

共催：一般財団法人地域創造 制作協力：一般社団法人日本クラシック音楽事業協会

連携市町



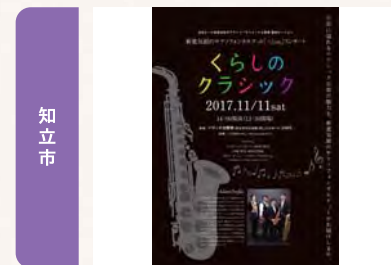
新城市
アウトリーチ:2017年9月27日(水)~29日(金)
作手小学校、作手中学校
参加者数/計128名
コンサート:2017年9月30日(土)
新城市 つくで交流館
入場者数/165名
演奏家:Les Vents Japonais

2017年4月に完成した、「つくで交流館」の開館を記念して臨んだアウトリーチ事業。山里の小さな地区で、子ども達が生の音楽にふれあう貴重な体験ができたこと。竣工して半年足らずのホールで、照明や音響操作も慣れない職員と住民が共に考え、行動して開催にこぎつけたコンサート。それを支えてくれたコーディネーターやスタッフと、素晴らしい演奏を聴かせてくれた演奏者の皆さんに“感謝”の一言です。
作手総合支所地域課 河合芳明



田原市
アウトリーチ:2017年10月25日(水)~27日(金)
田原中部小学校、衣笠小学校、
童浦小学校
参加者数/計190名
コンサート:2017年10月28日(土)
田原文化会館
入場者数/160名
演奏家:Les Vents Japonais

児童は身近な距離でアーティストと触れ合う貴重な体験をし、文化ホールでは生の演奏の魅力と感動を与えていただきました。事業は日程調整に始まり、現地見対応、宿泊手配、広報活動、チケット販売など、不慣れでどれをとっても大変な業務でしたが、貴重な経験をさせていただいたことで、改めて文化会館の運営や企画の手法を勉強させていただきました。感動を与えてくださった皆さまに感謝申し上げます。
教育部生涯学習課 前川孝子、小山沙織



知立市
アウトリーチ:2017年11月8日(水)~10日(金)
猿渡小学校、安城特別支援学校、
桜木幼稚園、徳風保育園
参加者数/計247名
コンサート:2017年11月11日(土)
パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)
入場者数/131名
演奏家:Adam

小学校、特別支援学校、幼稚園、保育園へのアウトリーチとコンサート、そして空いた時間を利用して喫茶店やお寺の境内でのミニコンサート、TV収録、ラジオ出演などの宣伝活動。短期間でありながら非常に濃密な5日間であり、経験し得たことはとても多かったです。中でもアーティストがその一つひとつに全力で励んでいたことが印象的で、全力でやればこそ聞き手に伝わるもの(感動)も多いのだと感じました。
一般財団法人ちりゅう芸術創造協会 堀川克磨



扶桑町
アウトリーチ:2017年11月29日(水)~12月1日(金)
山名小学校
参加者数/計185名
コンサート:2017年12月2日(土)
扶桑文化会館
入場者数/316名
演奏家:Adam

当館初の試みで、楽しみであると同時に成功するか心配でした。リハーサルを見学しAdamとコーディネーターが侃侃諤諤と議論する姿を見て彼らの音楽に対する熱意を知り、私の懸念は無くなりました。小学校での公演は4人の息の合った演奏、パフォーマンスが披露され、緊張気味だった児童が生に反応して自然に体を揺らしたり、嬉々とする姿をみて、今回アウトリーチができる環境を整えてくださった皆さま方に感謝をしています。
扶桑町教育委員会 文化会館 笠井健人



碧南市
アウトリーチ:2018年1月17日(水)~19日(金)
鷺塚小学校、西端小学校、
日進小学校、棚尾小学校
参加者数/計353名
コンサート:2018年1月20日(土)
碧南市芸術文化ホール
入場者数/160名
演奏家:Trio Minpia

最初の顔合わせの際に新井さん(Trio Minpia)がおっしゃった「子どもたちに迎合する音楽はやらない、僕らが聴かせたい音楽、本気の音楽を見せたい」という言葉のとおり、骨のあるプログラムでした。妥協なく真剣に全力で演奏する姿に子どもたちは正に釘付けとなり、音楽室がすさまじい緊張感に包まれました。作りこまれたプログラム、毎回進化していく内容に、アウトリーチ公演の新たな発展、活路を見出せました。
碧南市芸術文化ホール指定管理者 エリアワングループ 井野徳明



豊川市
アウトリーチ:2018年1月24日(水)~26日(金)
代田小学校、千両小学校、
一宮東部小学校、牛久保小学校
参加者数/計235名
コンサート:2018年1月27日(土)
豊川市小坂井文化会館(フロイデンホール)
入場者数/223名
演奏家:Trio Minpia

多くの時間をアーティストやコーディネーターの方々と共有することで、アウトリーチを実施する上で必要なことを学ぶことができ、とても有意義な事業となりました。学校では、素晴らしい演奏に素直に感動する姿を見て、児童達の感受性の高さと素直な心に感心すると同時に、プロのアーティストによるレベルの高い演奏は、小学生にもしっかり伝わり、それぞれの心に影響を与えることができるものと改めて感じました。
市民部文化振興課 小原寛明、松井梢



演奏するだけでなく話す言葉の使い方など、観客の惹き付け方を考察する良い機会になったプロジェクト。写真はLes Vents Japonais。



碧南市と豊川市でアウトリーチ活動を行なったTrio Minpia。



知立市と扶桑町でアウトリーチ活動を行なったAdam。

アウトリーチ参加者&コンサート来場者の感想

- 間近で楽器が見られ良い機会だった。プログラムや演奏者の人の話面白かった。演奏者の人ともっと話したり、交流してみたかった。(新城市)
- 全員の息がピッタリでとてもきれいでした。私はプラスバンド部でテナーサクスを吹いていて、アンサンブルコンテストでSAX四重奏に出るので、とても参考になりました。(田原市)
- もうすぐ私は学校を卒業し社会人になっていくのですが、今回の演奏会は一生忘れられない思い出になりました。また見たいと思いました。(知立市)
- こんなに近くで楽器の生の演奏を聴いたのは久しぶりのことでした。Adamの皆さんが訪問して下さった山名小で皆さんの演奏に触れた娘(小4)にねだられて、本日のコンサートに来ましたが、娘をそっこのけで、どっぷりとひたらせていただきました。思いがけず、ステキなひとときを過ごしました。ありがとうございました。開演前のロビーでのミニコンサートで皆さんに手をふってもらえた娘は大喜びでした。(扶桑町)
- ヴァイオリンは、高い音が目立っていてとてもむずかしそうだなと思いました。わたしはトリオミンピアのみなさんにあこがれて音楽の仕事をやってみたいなと思いました。(碧南市)
- ピアノもヴァイオリンも指がとても速く動いて凄いなと思いました。チェロの音がとても低くて体に響いてびっくりしました。(豊川市)

公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業・愛知セッションに参加した演奏家

レ・ヴァン・ジャポネ Les Vents Japonais



左から 山内 信英 / フルーツ 加治 佑子 / ホルン
竹下 未来菜 / ファゴット 川越 あさみ / クラリネット 久保 一麻 / オーボエ

■Profile
2011年結成。尊敬するレ・ヴァン・フランセを大きな目標として現在の名前で活動している。12年、ヤマハ横浜music HARBORでのコンサート開催を皮切りに、オーディション合格者による室内楽コンサートへの出演、教育現場での音楽鑑賞会やイベントでの演奏など活発に活動。木管五重奏のオリジナル作品を中心に、幅広いジャンルのレパートリーを持つ。

演奏家からの感想

しらかわホールでの公演はもとよりアウトリーチ活動で伺った全ての場所で普段体験できないような温かかつ真剣に私達を受け入れてくださったことは今までに経験したことのないものでした。関東圏での演奏とは少し違う反応に、最初は驚き次に喜びを感じました。音楽の力がどのようなものか、また人の心にどのように伝わっていくのか、最近様々な議論がなされていて私達演奏家も社会の中でどのように活動を展開していくことが最良の方法かと常に模索しながら活動していますが、快く受け入れてくださった愛知県の方々のおかげもあり、今回のこの貴重な体験を経て、一つの道筋が見出せたように思います。



トリオ・ミンピア Trio Minpia



みずの しょうこ 水野 彰子 / ピアノ
あらい たかもり 新井 貴盛 / ヴァイオリン
くろかわ みさき 黒川 実咲 / チェロ

■Profile
MinpiaとはMade in Nagoya Piano Trioの頭文字から取ったもので、全員が名古屋市出身のピアノ三重奏。メンバーは、東京藝術大学大学院修了のピアニスト水野彰子、同大学院博士課程在学中の新井貴盛、桐朋学園大学卒業のチェリスト黒川実咲。かっこよくて美しいクラシック音楽を、自分たちを通して伝えたいという強い意志を持ちながら活動する。

演奏家からの感想

子ども達にメンデルスゾーンピアノトリオを聴いてほしい!という私達の強く頑固な意思でアウトリーチのプログラムを立てていきました。生演奏を聴いてもらうということの大事さを改めて感じ、また、子ども達の集中力と純粋さと笑顔にこちら側が感動させられました。碧南、豊川とどちらも1月の寒い時期ということで学校の先生方にはストーブや、乾燥しすぎないように、やかんの準備もしていただき、本当に有り難かったです。コンサートでは、小学生もたくさん来てくれて、最後までしっかりと集中して聞いてくれました。素敵なコメントがたくさんアンケートも嬉しかったです。素晴らしい経験を本当にありがとうございました。



アダム Adam



左から 山下友教 / ソプラノ・サクソフォン 野原 一希 / テナー・サクソフォン
田口 雄太 / アルト・サクソフォン 奥野 祐樹 / バリトン・サクソフォン

■Profile
昭和音楽大学出身の4人によって結成されたサクソフォン四重奏団。ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コンクール2015にて、サクソフォン・カルテットとして初の第1位を受賞。ドイツの音楽祭に出演し、総立ちの拍手喝采を浴びる。色彩豊かなサウンドと個性を生かし、聴衆を飽きさせない選曲やパフォーマンスに日々工夫を凝らしている。

演奏家からの感想

メンバー一人ひとりの考え方、そして、Adamとしての在り方がどんどん変化していくのを体験しました。実際、アウトリーチ後に都内でも何度かコンサートをしました。明らかに会場の雰囲気や空間が今までと異なり、聴いてくださる方と感情や空間を共有しているような感覚が強くなりました。それは一種のテレパシーのようなものなのだと思います。アウトリーチで感じた、一人ひとりと繋がっているかのような不思議な感覚は、私たちにとっても、とても大切な時間でした。そして、本質となる音楽をする事の意味も見出すことが出来ました。ある小学生が話してくれた「僕、音楽嫌いだったけど、Adamに会って好きになった」という気持ちを大切に、これからも音楽の楽しさ・幸せな気持ちを広めていきたいと強く感じています。



新進気鋭の演奏家による

『クラシック・キャラバン・コンサート in 愛知』にて本事業の集大成を発表

木管五重奏、サクソフォン四重奏、ピアノ三重奏とそれぞれの演奏を行なった後、最後は「タンゴの破壊者」とも呼ばれるA.ピアソラの名曲を合同演奏。今回のコンサートならではの希少な編成で観客を魅了しました。

日程 / 2018年2月17日(土)
会場 / 三井住友海上しらかわホール(名古屋市中区栄2-9-15)
協賛 / 三井住友海上しらかわホール



コミュニケーション時間を設けて海外カンパニーと間近に触れ合う

アルヴィン・スプートニクの深海探検

The Adventures of Alvin Sputnik : Deep Sea Explorer

親子で楽しめるプログラムを提供する「ファミリー・プログラム」のひとつ。舞台を通して世界を感じ、コミュニケーションを育む「本物の劇場体験」をテーマに、エディンバラ演劇フェスティバルを皮切りに、ドイツ、フランス、カナダなど世界中のツアーで絶賛されたティム・ワッツの代表作をオーストラリアより招へいしました。

演劇×パペット×アニメーションを融合させた新しい形の演劇であり、「生と死、そして愛」を表現した作品です。公演後にセッティングをしたアーティストとの交流タイムや、子どもたちの創造力を引き出すパペット製作のワークショップを通して、海外カンパニーとの触れ合いを楽しみました。



日程／2017年7月31日(月)・8月1日(火)

会場／愛知県芸術劇場 大リハーサル室

入場者数／計419名

作・演出／TIM WATTS ティム・ワッツ

製作／THE LAST GREAT HUNT ザ・ラストグレート・ハント

出演者プロフィール

ザ・ラストグレート・ハント

THE LAST GREAT HUNT

1994年設立。オーストラリア西部パースに本拠を置き、映像や身体パフォーマンスなどを取り入れた新しい演劇の形に挑戦しているアーティスト集団。

連携会場

日程／2017年8月3日(木) 入場者数／計195名

来場者からは「子ども向けの公演をもっとほしい」「海外作品をまた見たい」等の声をいただきました。今まで親子・子ども向けの小規模公演は開催していませんでしたが、子どもたちの反応からも、なるべく近くでアーティストの動きがわかる作品が求められていることを感じました。このような機会をいただけて良かったです。愛知県芸術劇場のスタッフの方々の開催に係る配慮やお客さまへの対応も勉強になることが多く、良い経験となりました。

半田市教育委員会 蛭川愛、村上裕子

半田市福祉文化会館
(雁宿ホール)

日程／2017年8月6日(日) 入場者数／計103名

海外カンパニー招へいは、本市だけでは難しいことなので、この連携プロジェクトへの参加は、非常に意義のあるものでした。海外の素晴らしい作品を豊川市の皆さんにお届けすることができ、本当に良かったと思います。アニメーションやパペットを使った壮大で心温まる作品は、大人も子どもも楽しめるとても素敵な作品でした。終演後のコミュニケーションも、子どもたちが外国の方と触れ合う貴重な機会になったと思います。

市民部文化振興課 小原寛明、松井梢

豊川市音羽文化ホール
(ウィンテイヤホール)

日程／2017年8月9日(水) 入場者数／計171名

愛知県芸術劇場を核に、県内の4劇場が単独では招へいが難しい海外カンパニーの作品を上演できたうえ、その制作過程において連携協力・情報交換や、お互いの現場視察を交えて、参加する劇場の担当者同士が交流を図る事ができたのは、非常に得難い制作経験となりました。さらに多文化共生事業という観点による知立でのワークショップ開催は、劇場の果たす役割を地域に示すことができたと感謝しています。

一般財団法人ちりゅう芸術創造協会 戸谷田知成

パティオ池鯉鮒
(知立市文化会館)

日程／2017年8月11日(金・祝) 入場者数／計119名

重厚なストーリーと、アイデア満載の表現がとても幻想的でした。大人はストーリーに引き込まれ、子どもは演技や演出に夢中になる…。これまでの「親子向け公演」の概念を覆す、まさに“本物の劇場体験”を発信することができました。また、ツアーを通して作品を熟知している愛知県芸術劇場のスタッフがすべての会場の運営に携わっていることも大変心強く、海外アーティストとのコミュニケーションも円滑で、より質の高い完成度で上演することができたと満足しています。

稲沢市公共施設管理協会 友利宇一、今井絢子

名古屋文理大学文化フォーラム
(稲沢市民会館)



パティオ池鯉鮒と知立東小学校(共に知立市)ではパペット作りの関連ワークショップを実施。



多彩な表現と愛のあふれる冒険物語。



終演後の交流タイムは子どもたちに大人気!



公演の待ち時間にはファミリー・プログラムのキャラクターの塗り絵を用意。

来場者の感想

●人とアニメーション・人形などが一体となった素敵な舞台でした。音楽もよかったです。海外の方の作品を見るチャンスが少ないのですが、日本人とは違う感性を見られて良い経験になります。また、海外の作品が見たいです。(半田市)

●小さな子どもがじっと聞いているのが不思議だった。子どもも楽しめていたようで良かった。(豊川市)

●小学生の子どもと2人で見ました。英語のセリフと字幕は子どもには難しいかなと思いましたが、音楽やジェスチャー・人形の動きから感じ取って理解し、楽しめたようです。地球温暖化の危機を訴える社会派の内容かと思っていましたが、心温まる愛のお話で、最後はじんわりと泣けてくるようでした。50分という上演時間も良かったです。夏休みの良い時間を過ごせました。(知立市)



©羽鳥直志

●不思議な幻想的な世界に惹きこまれ、楽しかった。パペットの動きがとても滑らかで生きているようでかわいい。手や影絵なのに表情まで感じた。出演者との距離が近かったのが、とてもよかった。難しそうなストーリーだったが、視覚的に伝わるものがあったので、子どもたちも楽しめた。(稲沢市)

●アルヴィンが指の動きで表現できるのが、すごい!びっくりした。あんなふうに動かせるなんて、これまたすごい!ちょっとまねしたけど…うまくできなかった。頑張ってみよう。(愛知県)

●すごくこっていたし、映像が美しくて話がかわいくて、とても一人でぜんぶやっているとは思えなかったです!きかいがあったら、もう一度見たいです!(愛知県)



連携館によるミーティング。それぞれのやり方を学び合う良い機会にも。

様々な地域から刺激を受けてこそ進化する即興のライブパフォーマンス

島地保武×環ROY『ありか』

Yasutake Shimaji × ROY Tamaki "Arika"

異なる領域で活動するダンサー・島地保武とラッパー・環ROYが、固定観念を揺さぶりながら挑んだ新しいスタイルのライブパフォーマンス。踊りと言葉の起源を辿り紡いだ物語をベースに、即興による動き、音、声、リズムが時空を超えて交差。各地域から受けるインスピレーションや創作意欲の刺激など、作品自体も旅を続け進化していきました。



左からKAAT神奈川芸術劇場、春日井市民会館、パティオ池鯉鮒(知立市)、山口情報芸術センター(YCAM)の公演フライヤー。



©羽鳥直志

公演を重ねるごとに異なる魅力を開花させた『ありか』。2018年6月23日(土)・24日(日)には、愛知県芸術劇場小ホールにて再演が決定。

連携会場

春日井市民会館



(知立市文化会館) パティオ池鯉鮒



日程/2017年9月15日(金)・16日(土) 入場者数/計252名
春日井では、小学生からシニア世代まで幅広い層のお客さんが集まりました。子どもの素直な反応につられて大人も笑うなど、上演中も穏やかな空気が流れていたのが印象に残っています。出演者の島地さんからは「春日井のお客さんはあったかい」という言葉をかけてもらいました。見に来たお客さんからは、「栄までは出かけないけれど、近くでやるから見に来た」という声をかけてもらいました。連携事業は、劇場の人材交流であるとともに、普段接することのない作品と市民との新たな出会いの場になっていると感じました。
公益財団法人かすがい市民文化財団 伊藤寛隆

日程/2017年9月18日(月・祝) 入場者数/計101名
『ありか』に出会ったのは、2016年4月。ちょうど翌年のダンス企画を検討していたタイミングで、ピースはがっちりとはまりました。来場者は幅広い年齢層であったが、他の公演と比較して若い層が多い様相でした。公演が始まると、光と音と島地・環の2人の熱気が会場を包み、世代を越えてそのパフォーマンスは歓迎され、会場を訪れた地域のみなさんに、笑顔と一体感を伴った良質な体験を提供する事ができました。『ありか』と出会えた幸福に感謝!
一般財団法人ちりゅう芸術創造協会 戸谷知成

愛知県外における連携

KAAT神奈川芸術劇場



山口情報芸術センター(YCAM)



日程/2017年9月8日(金)~10日(日)
入場者数/計507名

日程/2017年9月23日(土・祝)・24日(日)
入場者数/計196名



春日井市民会館では、舞台上にステージを設置。



©羽鳥直志

橋掛かりのような長細い通路に繋がれた2つのステージ。



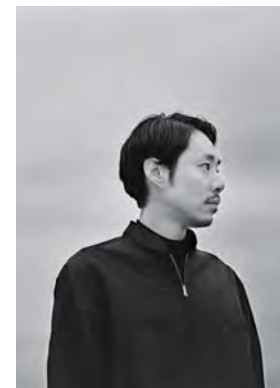
舞台作業も両劇場の舞台技術スタッフが協力。

出演者プロフィール



しまじ やすたけ
島地 保武(ダンサー/振付家)

1978年長野県生まれ。2004~06年Noism、06~15年ザ・フォーサイズ・カンパニーに所属しメインパートを踊る。13年に酒井はなのユニットAltneuを結成。14年に「NHKバレエの饗宴」にAltneuで出演。資生堂第七次椿会メンバーになりパフォーマンスに加えインスタレーション作品を展示。近年の作品に15年Noism2に『かさねのいろめ』、17年谷桃子バレエ団に新作『Sequenza』、18年Noism2『私を泣かせてください』がある。またアーツ前橋「アートの秘密」展にインスタレーション作品を出品。
www.shimaji.jp



たまき ろい
環ROY(ラッパー/音楽家)

1981年宮城県生まれ。これまでに最新作『なぎ』を含む5枚のCDアルバムを発表し、国内外の様々な音楽祭へ出演する。近年は、パフォーマンス作品『いくつもの一緒』金沢21世紀美術館(2014年)、インスタレーション作品『Types』寺田倉庫 T-Art Gallery(15年)、映画『アズミ・ハルコは行方不明』劇伴音楽(16年)、NHK教育『デザインあ』コーナー音楽(16年)などの制作を行う。
www.tamakiroy.com

お茶を片手に台本を読み合うことで、気軽に演劇体験ができる

リーディング・カフェ —プロ俳優と一緒に台本を読んでもよう—

Reading Cafe —Let's Read Scenarios with a Professional Actor!—

愛知県芸術劇場とSPAC(静岡県舞台芸術センター)の共同企画『寿歌』の関連ワークショップ。参加者同士でティータイムを楽しみながら、プロの俳優による作品解説を聞き、声を出して台本を読むことで、気軽に演劇体験ができる。朗読や読み聞かせ、ナレーションに興味のある方はもちろん、初心者も多く参加。俳優にとっても、様々な考えを持った人と出会う良いきっかけとなりました。

連携会場

パティオ池鯉鮒
(知立市文化会館)

日程/2017年11月16日(木) 参加者数/計43名

長久手市文化の家

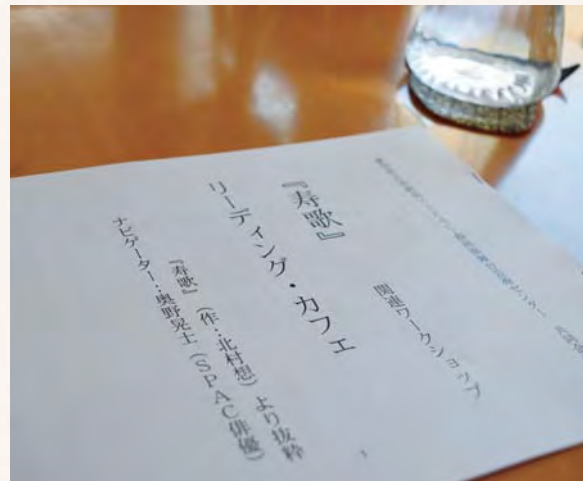
日程/2017年11月17日(金) 参加者数/計35名

新城市 つくで交流館

日程/2018年2月10日(土) 参加者数/15名

小牧市公民館

日程/2018年2月11日(日・祝) 参加者数/計39名



リーディング・カフェ用に作られた『寿歌』のテキスト。



『寿歌』の台本を読む参加者の様子。



参加者が台本を読み上げ、それに講師が合いの手を入れる方式で進行了ました。



中央・帽子を被った男性がすべての会場で講師を務めた奥野晃士氏。



台本を読み上げる参加者の様子。

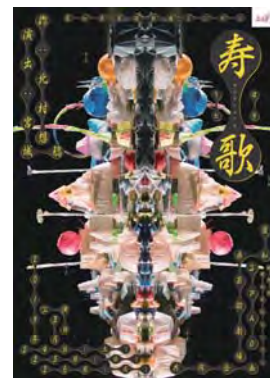
関連公演

愛知県芸術劇場

SPAC(静岡県舞台芸術センター)共同企画『寿歌』

- 愛知 2018年3月24日(土)~26日(月) 愛知県芸術劇場 小ホール
- 静岡 2018年4月28日(土)・30日(月・休) 舞台芸術公園 野外劇場「有度」
- 熊本 2018年5月18日(金)・19日(土) ながす未来館
- 福岡 2018年5月26日(土)・27日(日) 北九州芸術劇場 小劇場
- 茨城 2018年6月8日(金) ひたちなか市文化会館 小ホール
- 愛知(知立) 2018年6月16日(土) パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)
- 愛知(小牧) 2018年6月23日(土) 小牧市市民会館

作/北村想 演出/宮城聡 出演/奥野晃士、春日井一平、たきいみぎ(SPAC)



講師からの感想

リーディング・カフェでは大変お世話になりました。愛知県内のいろいろな地域の劇場の熱い取り組みやそれぞれの事情がわかり、とても有意義なツアーになりました。どの地域も皆さまとても積極的に盛り上がり、楽しい会になりました。リーディング・カフェを通して観劇層が増えてくれたらいいと思います。

おくのあきひと
奥野 晃士

SPAC(静岡県舞台芸術センター)所属。主な出演作品に、鈴木忠志演出『イワノフ』、宮城聡演出『夜叉ヶ池』など。またNoism金森稜演出振付の劇的舞踊『カルメン』や、Noism0(ゼロ)への参加で、舞踊と演劇のジャンルを超えた新たな取り組みへの出演でも注目を集める。



振付家オハッド・ナハリン考案のメソッドを体験して心身の緊張を解す

GAGA & バレエ入門講座

GAGA & Ballet Introductory Lesson

ヨガやピラティスと同様に、心身の緊張を解すメソッドとして今、注目されている“GAGA”を体験。講師が発する言葉からイメージする動きを自分なりに表現するという、身体の変化を楽しむレッスンは、動作を制限されることがないため、自分の身体に集中することができました。GAGAで緊張した身体を解した後、身体の感覚に耳を傾けながら、リラックスした身体でバレエを体験しました。

連携会場

小牧市市民会館

半田市福祉文化会館
(雁宿ホール)

日程 / 2017年10月29日(日) 参加者数 / 20名

日程 / 2017年10月30日(月) 参加者数 / 25名

インストラクターコメント

この度、イスラエル発祥のムーヴメント・ランゲージ(身体言語)と呼ばれている、「GAGA(ピープル)」をメインにクラスを開講させていただきました。「GAGA」とは、動く喜びを実感するための運動であり、イスラエルのダンサーのトレーニングでも日常的に取り入れられています。

私は、5年前から東京でGAGAクラスを開講していますが、東京都外での開講は今回が初めてでしたので、受講生の方々の反応がどのようなものになるのか正直不安でした。

GAGA(ピープル)の受講条件は16歳以上ということで、受講生は学生さんや、ご年配の方、ダンス経験がある方からない方まで様々でした。クラスが始まる前は、受講生の方々も少し緊張なさっていましたが、いざクラスを終えてみると、初めてのGAGA体験にも関わらず、とても有意義な時間を過ごして頂いた様で、「1時間動き続けても、自分のペースで出来るからしんどくなかった」「初めて肩甲骨に意識を持たた」「こんな風に身体が動くななんて知らなかった」など、個人差はありますが、自分の身体と向き合う事で、小さな発見があったようでした。そして、「1回ではあまり良く分からない

ので、何回か続けてみたい」というご意見も頂きました。今回の経験から、改めてGAGAの素晴らしさを再確認する事が出来たと同時に、より深くGAGAを知って頂く為には、継続して開講していく必要性を感じました。これからも、愛知県の方々、そして日本全国の方々にGAGAを広めていく活動を続けていきたいと思えます。

おおてかな
大手 可奈

1999年、リヨン国立高等音楽院バレエ科卒業。以後、ヨーロッパを拠点にコンテンポラリーダンサーとして活動。2010年、ポーラ美術振興財団の在外研修助成を受け、イスラエルのバットシェバ舞踊団にて研修。11年、GAGAインストラクター育成プログラムに日本人初として参加し、インストラクター資格を取得すると共に、イスラエル発祥のイラン・レヴ・メソッドを学び、施術資格を取得。身体の動きの可能性を研究する。12年より活動拠点を日本に移し、GAGA、GAGAの思考をベースとしたバレエ、コンテンポラリーダンスの指導にあたりと共にフリーランスダンサーとして活動中。



©Gadi Dagon

バットシェバ舞踊団がトレーニングとして行なっているGAGA。



半田市福祉文化会館で行なわれたバレエ入門講座の様子。

関連公演

バットシェバ舞踊団 / オハッド・ナハリン 『LAST WORKーラストワーク』

愛知 2017年11月3日(金・祝)

愛知県芸術劇場 大ホール

埼玉 2017年10月28日(土)・29日(日)

彩の国さいたま芸術劇場

福岡 2017年10月31日(火)

北九州芸術劇場

滋賀 2017年11月5日(日)

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール



オハッド・ナハリン
Ohad Naharin

1952年イスラエル生まれ。20代から舞踊を始め、ダンサーとしてバットシェバ舞踊団で活躍の後、渡米しマーサ・グラハム舞踊団に入団。80年に振付家としてデビュー、90年バットシェバ舞踊団の芸術監督に就任。複雑な社会の中で常に生死と向き合いながら創作を続ける。



小牧市市民会館のワークショップ参加者。



半田市福祉文化会館のワークショップ参加者。

市町村連携プロジェクトの可能性



担当事業

公共ホール音楽活性化
アウトリーチフォーラム事業・
愛知セッション

島地保武×環ROY『ありか』

ガガ
GAGA&バレエ入門講座

2年間にわたり実施したアウトリーチフォーラム事業。演奏家が市町村に滞在した5日間は、担当者との交流を深め、地域の魅力や現状を感じ取る貴重な時間でした。年月を経て市町村劇場に培われた地域の人々との深いつながりが、演奏家と人々を結んでいく。劇場が“つながりの窓口”となって、そこから出会いが広がっていきました。今回のアウトリーチフォーラムをモデルケースとして、市町村連携プロジェクトの可能性を探っていきたく考えています。また、ダンス事業では実施する過程で、市町村の担当者から要望をいただき、地域の舞台技術スタッフとの事前交流や、ボランティア研修などを行いました。ニーズを示していただくことによって、多様な連携の形があるのだと気付きました。公演を実施するのみでなく、市町村劇場の多様なニーズにお応えしながら、これからも新しい連携の形にチャレンジしていきたいと思っています。

— 愛知県芸術劇場プロデューサー 加藤 愛



担当事業

アルヴィン・スプートニクの
深海探検

リーディング・カフェ

今年度、『アルヴィン・スプートニクの深海探検』のツアーと、リーディング・カフェとで県内の色々な劇場の皆さまと一緒にしました。アルヴィンのツアーでは地元団体との連携、各地域での地域に密着した広報など学ぶことが多い公演でした。豊川では公演後に地域の夏祭りを出演者と観に行くことができ、愛知の文化を楽しんでいただくことができたのも良かったと思っています。

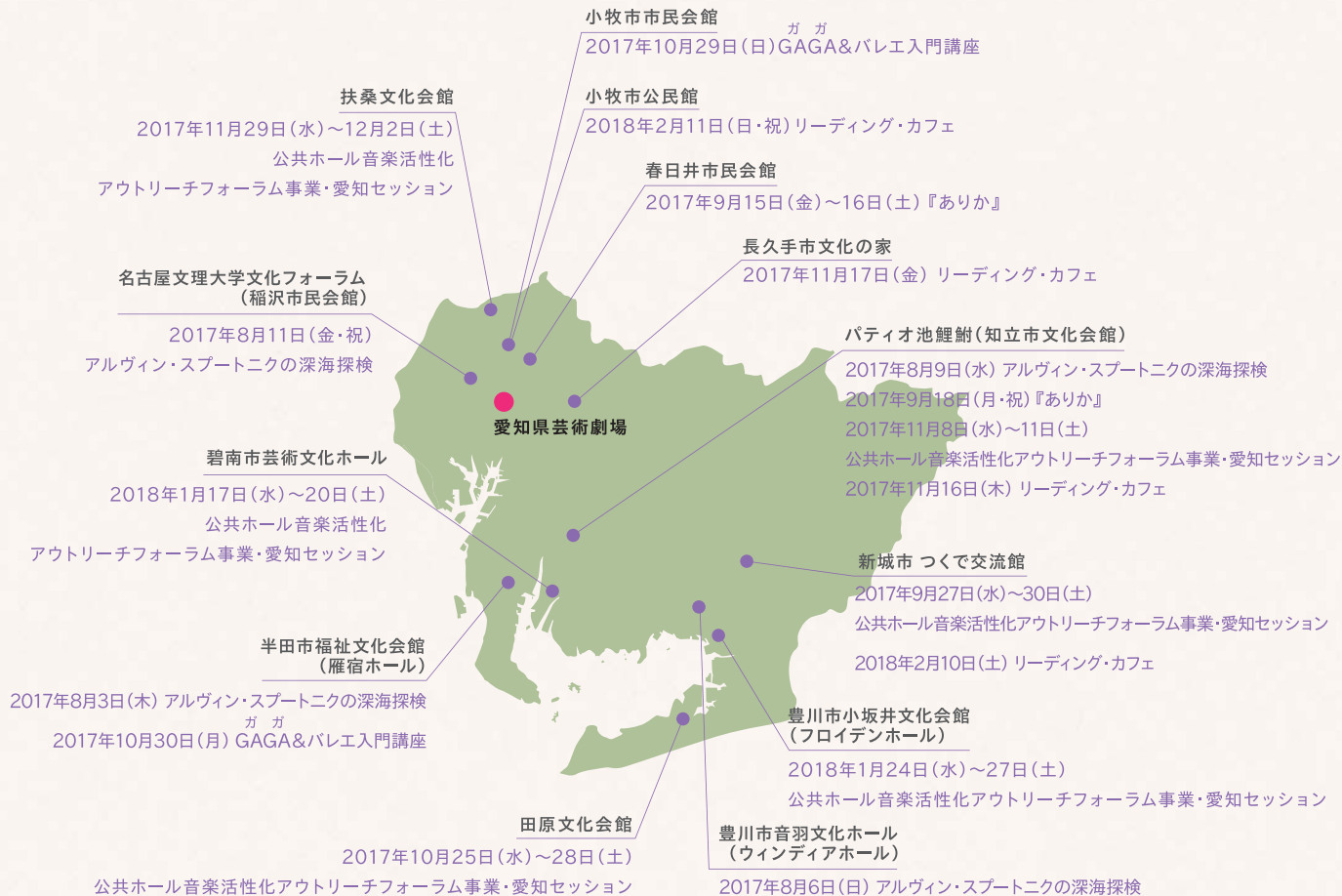
リーディング・カフェではさらに近い距離で参加者の皆さまとお話できました。若いお母さんがお子さま連れで参加してくださった知立、アットホームな新城、中学生・高校生が気軽に来てくださった長久手、読み聞かせボランティアの方が大勢参加してくださった小牧など、それぞれの地域ならではの話を伺うことが出来ました。

一年の地域連携の活動を通して、市町村劇場あつての県劇場だと強く感じました。今後も互いの良さ・特性を活かした企画展開で県内全体を盛り上げていきたいです。

— 愛知県芸術劇場プロデューサー 山本 麦子

連携会場

愛知県内13の会場と市町村連携を実施。延べ37日、総勢3,611名の方にご参加いただきました。
※『ありか』は愛知県外の劇場(KAAT神奈川芸術劇場、山口情報芸術センター-YCAM-)との連携も実施。



館長あいさつ

私は「劇場とは楽しいところであるべきだ」と常々思っています。劇場は決して敷居の高いところではありません。多くの人々が集い、楽しさを分かち合い、喜びを伝える場として、この愛知県芸術劇場が少しでも役立ってほしいと考えています。

劇場の使命は、地域に多くの優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにあります。愛知県芸術劇場は、この地域ならではのホール職員同士の強いネットワークを活かし、県内のハブ劇場として、世界や全国の劇場と市町村劇場をつないでいくことで、地域全体に貢献してまいります。



愛知県芸術劇場館長
丹羽 康雄



発行／愛知県芸術劇場(公益財団法人 愛知県文化振興事業団)

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

TEL 052-971-5609

<http://www.aac.pref.aichi.jp>

編集：株式会社ゲイン

発行日：2018年3月